

授業科目名	異文化間コミュニケーション			担当教員	力武 由美	
開講年次	1 年後期	セメスター	1	時間数(単位数)	30 (1)	
必修選択	選択	授業形態	演習	使用教室		
授業の目的	外国の大学生と合議する経験を通して、異文化に対する観察力および想像力ならびに自文化への内省および分析力を涵養する。併せて、英語学習の動機を高める。					
到達目標	1. 国際的文脈でコミュニケーションをする力を伸ばすための学習技能を活用することができる。 2. コミュニケーションにおける文化の役割と影響について知り、それに配慮するための行動と態度を取ることができる。 3. 複数の人々と協力して、「適切な発表の準備と実行」を行う能力と態度を取ることができる。 4. 体験を内省し記録することを通じて、内省から新たな目標を認識する態度と能力を活用することができる。					
ディプロマポリシーにおける科目の位置づけ	本科目は、本学の教育理念にもとづく教育内容の5つの柱のうちの「国際」「人間」「環境」を主にカバーする科目であり、特に「問題解決力」と「チームで働く力」を高める科目である。異なる文化を持つ人とのコミュニケーションにおいて生じるストレス、ショック、摩擦、などの様々な障害を克服し、コミュニケーションを成立させるために、文化の異同を認識する観察力と洞察力を鍛えながら、「問題解決能力」を高める。 また、海外研修を安全で実りあるものにするために、グループで協議をしながら活動する場面が多く設けられており、「チームで働く力」を高める科目として位置付けられている。					
ディプロマポリシーとの関連	人間の尊厳と権利を擁護する力	自己教育力	チームで働く力	問題解決力	看護の専門性を探究する力	
			○	◎		
授業計画						
回	授業内容	授業方法	学修課題 (予習・復習)		取組時間	担当者
1	研修準備1：目標および活動内容の確認と計画	講義	予習：本科目を受講して達成すべき個人の目的・目標を明確にする。 復習：海外に出る上での基本的手続きと学習活動内容を確認し、必要な準備を認識する。これに基づいて、発表および交流活動の準備を始める。		60－90分	力武
2	研修準備2：発表主題探索	講義・演習	予習：相手国の学生との活発な議論を誘発すると思われる話題や論点を考え、情報を収集して、主題案を構想する。 復習：発表の主題を文章化する。		60－90分	力武
3	研修準備3：主題および論点の決定	講義・演習	予習：主題を決定し、議論の展開を予測して含める内と構成を考える。 復習：具体的な発表資料を作成する。		60－90分	力武
4	研修準備4：発表案の検討	講義・演習	予習：発表案を他のグループに示し、相互にコメントする。 復習：コメントに基づいて修正する。		60－90分	力武
5	研修準備5：発表・挨拶予行	講義・演習	予習：予行で明らかになった問題に対し必要な修正を行う。 復習：さらに練習を積む。		60－90分	力武
6	研修活動1：開講式、挨拶、自己紹介など	演習	予習：当日の研修活動計画を確認し、発表の練習をする。 復習：印象、活動結果、所感を記録する。		60－90分	力武
7	研修活動2：Session 1 A 班、B 班の発表および QA	講義	予習：当日の研修活動計画を確認し、発表練習をする。 復習：印象、活動結果、所感を記録する。		60－90分	力武

8	研修活動3：Session 1 C 班、D 班の発表および QA	演習	予習：当日の研修活動計画を確認し、 発表練習をする。 復習：印象、活動結果、所感を記録する。	60 - 90 分	力武
9	研修活動4：Session 1 E 班の発表および QA 相互評価	演習	予習：当日の研修活動計画を確認し、 発表練習をする。 復習：印象、活動結果、所感を記録する。	60 - 90 分	力武
10	研修活動5：Session 2 A 班、B 班の発表および QA	演習	予習：当日の研修活動計画を確認し、 口頭発表の練習をする。 復習：印象、活動結果、所感を記録する。	60 - 90 分	力武
11	研修活動6：Session 2 C 班、B 班の発表および QA	演習	予習：当日の研修活動計画を確認し、 口頭発表の練習をする。 復習：印象、活動結果、所感を記録する。	60 - 90 分	力武
12	研修活動7：Session 2 E 班の発表および QA 相互評価	演習	予習：当日の研修活動計画を確認し、 口頭発表の練習をする。 復習：印象、活動結果、所感を記録する。。	60 - 90 分	力武
13	研修活動8：閉校式、スピーチ 諸施設訪問でのインタビュー	演習	予習：当日の研修活動計画を確認し、 口頭発表の練習をする。 復習：印象、活動結果、所感を記録する。	60 - 90 分	力武
14	内省と記録：報告書作成計画、 個人および共働活動の内省と執筆	演習	班および全体としての活動に関する内省 を共有する。報告書の構成と編集方法を 決める。班としての報告文の分担部分お よび個人としての報告文を作成する。	60 - 90 分	力武
15	フィードバック（執筆原稿にもとづ き、成果と理解が不十分な点を 中心に説明する）とまとめ	演習	個人としての法つく文に対して相互にコメ ントする。必要な修正を行い、完成させる。 報告書の原稿を編集・校正をする。	60 - 90 分	力武
先行履修 科目					
テキスト		テキストは指定しない。			
参考文献		E. T. ホール（訳：國弘正雄、永井善見、斉藤美津子）：沈黙の言葉、南雲堂、1996 年。 リチャード・ルイス（訳：阿部朱里）：文化が衝突するとき、南雲堂、1996 年。 エリン・メイヤー（監訳：田岡恵、訳：樋口武志）：異文化理解力。英治出版、2015 年。 井上逸兵：伝わるしくみと異文化間コミュニケーション、南雲堂、1999 年。 金子光茂、リチャード・H・シンプソン：英語脳の鍛え方、南雲堂、1996 年。 久米昭元・長谷川典子：ケースで学ぶ異文化コミュニケーション、有斐閣、2007 年。 八代京子他：異文化トレーニング、三修社、2009 年。			
評価方法		準備活動における積極的参加と役割実行とプレゼンテーションの完成度（30%） 研修現場での役割実行と国際交流への積極的参加と発表等のパフォーマンスの完成度（30%） 研修後の役割実行（10%）と記録内容・レポートの完成度（30%）			
教員等の 実務経験		米国留学、海外で開催される国際学会での発表、海外渡航などの多くの経験を持つ教員が 講義をします。			
メッセージ		「国際的」であるとはどういうことなのか—国際的な視点と思考、国際的な精神、国際的な姿 勢・態度などについて、概念化し、国際的な場での的確な行動がとれるようにすることを目指し てください。			